

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1471902500
法人名	株式会社 スマイル
事業所名	スマイル住まいる横須賀大矢部
訪問調査日	平成20年2月7日
評価確定日	平成20年3月24日
評価機関名	社団法人かながわ福祉サービス振興会

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年4月2日

【評価実施概要】

事業所番号	1471902500		
法人名	株式会社 スマイル		
事業所名	スマイル住まいる横須賀大矢部		
所在地 (電話番号)	神奈川県横須賀市大矢部3-18-5 (電話) 046 - 833-5858		
評価機関名	社団法人かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区本町2-10 横浜大栄ビル8階		
訪問調査日	平成20年2月7日	評価確定日	平成20年3月24日

【情報提供票より】(20年1月18日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 12月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤 13人, 非常勤 5人, 常勤換算	16,1人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	2階建ての 1 階 ~ 2 階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	65,000 円	その他の経費(月額)	33,000 円	
敷 金	有() 円 (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	(有) (360,000円) 無	有りの場合 償却の有無	(有)/ 無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	400 円
	夕食	500 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(1月18日現在)

利用者人数	14 名	男性	3 名	女性	11 名
要介護1	3 名	要介護2	2 名		
要介護3	6 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86,5 歳	最低	74 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	大畑医院
---------	------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>このホームは、京急線の北久里浜駅からバスで5分、佐原橋バス停から徒歩約3分の場所にある。ホーム内はエレベーターがあり、バリアフリー構造で、檜のお風呂、車いす対応のトイレ等には、十分な介助スペースがある。自然光が程良く取り込める回廊式の建物である。</p> <p>現時点では看取りを行っていない。その方針は入居時に利用者、家族に明確に伝えられている。医療との連携体制が整ってきたこともあり、今後は、利用者、家族、職員の意向も踏まえながら、看取りを行うことを前向きに検討する予定である。「常にご本人様とご家族様がやすらぎをもてるようなサービスをご提供いたします」という理念に沿ったケアに努めており、利用者は穏やかでゆったりとした雰囲気の中で静かに過ごしている。</p>

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の外部評価結果で改善課題は無かった。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己及び外部評価の意義や外部評価結果は、ミーティングで全職員に周知している。自己評価表を職員に配布し、記載したものをユニットの責任者がまとめ、管理者が確認しており、全員で自己評価に取り組んでいる。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議は、民生委員、地域包括支援センター職員、市職員、近隣の8事業所の管理者・職員で構成している。3ヶ月に1回の開催予定で、各事業所の状況報告、質疑応答等を行っている。外部評価への取り組み状況についての報告や話し合いはまだ行われていない。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>利用者の権利として「職員に苦情を伝え、解決されない場合は専門家又は第三者の支援をうけること」が契約書に記され、受付窓口が重要事項説明書に明記されている。苦情処理の報告様式は独自のものはないが、事故報告書の苦情・再発防止の欄を使用している。家族来訪時に日々の様子や往診の結果を伝えるとともに、意見を聞いている。意見やクレーム等が上がった時は「連絡ノート」に記載し対応している。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>この地域には自治会がない。小学校から招待を受けて運動会や文化祭に出かけ、地域の人々と交流している。授業の一貫として小学生の訪問を受け入れ、笛や歌を披露してもらったり中学生の体験学習を受け入れている。横須賀市から情報を得るなどして、マジック、散歩の付添、お菓子作り等のボランティアに訪問してもらい交流している。</p>

2. 評価結果(詳細)

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念やホームの目的にもとづき「温かい心と高い技術をモットーに誠心誠意をつくし、常にご本人様とご家族様がやすらぎをもてるようなサービスをご提供いたします」という事業所独自の運営方針を掲げている。		
	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	自己評価項目と共に、理念を毎日朝礼で唱和している。また、事務所内に掲示し、職員と管理者は理念を共有している。		
2. 地域との支えあい					
	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域には自治会がない。小学校の運動会や文化祭に招待され、地域の人々と交流している。授業の一貫として小学生の訪問を受け入れ、笛や歌を披露してもらったり、中学生の体験学習を受け入れている。市から情報を得たり、職員の知人等に声をかけ、マジック、散歩等のボランティアに訪問してもらっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己及び外部評価の意義や外部評価結果は、フロア担当以外は全員が参加するミーティングで職員に周知している。前回の外部評価では改善項目は無かった。毎朝、理念と同様に自己評価項目を数項目ずつ唱和して、意識付けをしている。		
	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、民生委員、地域包括支援センター職員、市職員、近隣の8事業所の管理者・職員がメンバーになっている。3ヶ月に1回の開催予定で、各事業所の状況報告等が行われている。評価への取り組み状況等について報告や話し合いはまだ行われていない。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	制度や手続き等について不明な点がある時には、担当窓口で電話をしたり出向いて相談や問い合わせ等を行なっている。成年後見制度利用者を受け入れる予定があり、長寿社会課の担当窓口の職員とは相談等をして連携を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の暮らしぶりは、行事等の様子を写真で紹介する「すまいるだより(2~3ヶ月毎に発行)」や利用者ごとの日々の様子を記載した「生活の様子(毎月)」を送付して伝えている。健康状態の変化や問題が起きた時は電話で家族等に連絡している。預かり金については、毎月、出納帳と領収書を送付し確認している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	「職員に苦情を伝え、解決されない場合は専門家又は第三者の支援をうける権利」が契約書に記載され、受付窓口を重要事項説明書に明示している。家族の来訪時には意見を聞き「連絡ノート」に記載して、情報の共有と対応を図っている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者が職員の異動に気付いた際には、「しばらくお休みしています」「結婚したのよ」等と伝えている。利用者へのダメージを防ぐ配慮としては、引継ぎの期間を長く取っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は採用形態に関わらず研修や会議に参加する機会がある。原則全員参加のミーティングを毎月、ユニット会議は必要に応じ開催している。外部研修に参加した職員は「外部研修参加報告書」を作成し、資料と共に供覧したり、ミーティングで報告をしている。個別の「研修受講記録カード」で研修履歴を把握している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	横須賀市グループホーム協議会に加入している。協議会主催の交換研修に参加し同業者と交流している。交換研修では、報告書を相互に交換し合い、お互いの気づきをケアに生かせるようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族が見学に来た際は、説明のほか、本人が納得して入居にすることができるよう時間をかけて見学してもらっている。また、希望者には体験入居を実施し、納得したうえで入居してもらっている。		
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者の特技や趣味等を把握している。利用者から梅漬けやお新香の作り方を教えてもらったり、花を活けてもらい感謝している。また、句を詠んだり、詠んだ句を書にてもらおう等、一緒に過ごしながらか力を発揮してもらい、利用者から学んだり支えあう関係を築いている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントの生活史シートや暮らし方シート等を基に、家族等の話から思いや意向の把握に努めている。日々のサービスの中で「買物に行きたい」等の利用者の希望や状態を把握している。言葉にしづらい思いは、表情から把握している。把握した内容は、「新規入居者観察記録」等に追記し共有している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族からは、見直し前やケア会議に参加した際に、利用者からは、日々の関わりの中で、思いや意見を聞き介護計画に反映している。利用者それぞれの問題や現状にそって、居室担当職員や医師、看護師等とも話し合い、ケア会議で検討し、介護計画「施設サービス計画書(1)(2)」を策定している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画書の見直し期間は、6～12ヶ月が主となっている。状況の変化がある場合は、その都度見直している。毎月のモニタリングで目標に対する評価を行い、現状に即した新たな計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携に努め、訪問看護ステーションと契約し24時間連携できる体制がある。協力医以外の往診依頼もしている。利用者の混乱への対応を十分考慮したうえで、今後、要望があれば近隣在住の認知症の人を対象としたショートステイの併設を検討する意向である。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回、家族の同意を得て協力医療機関の内科医を受診している。その他歯科医、精神科医等の往診があり適切な医療を受けられるよう支援している。従来からのかかりつけ医を受診する際には、家族が同行している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りを行わない方針を「ご入居のしおり」に明示し、入居時に同時に介護保険施設への申込みをすることを原則としている。医療連携体制が整ってきている事や「看取りが可能か」との問い合わせが多数ある現状から、職員の意向も踏まえて、今後、方針の見直しを検討する予定である。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	居室に洗面台があり、プライバシーを保護し、自立を促している。排泄介助では、羞恥心や尊厳に配慮し、職員がかける声の大きさを利用者の状態に合わせて工夫している。記録等の個人情報は書庫に施錠保管し、パソコンのパスワードは毎月更新している。申し送りの際は場所や名前は小さな声で話す等の配慮をしている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床は各利用者のペースに合わせて、起きるまで待つ事を基本にしている。モップ掛けをする、テレビを見る、買物に行く等利用者が自分のペースを保ちながら暮らせるよう支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は、介助や会話をしながら利用者と一緒に同じ食事をしている。利用者の希望等を参考に遅番の職員が1日分の献立を決めている。外食や出前を取る等食事を楽しめる工夫をしている。利用者は下膳、材料運び等を職員と共に行っている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴することができる。夜間入浴の希望は無い。入浴をしたがらない利用者には、清潔が保たれるよう、中4日を目安に、トイレのついでにさりげなく誘う等、職員がタイミングを見て入浴を促している。檜風呂やゆず湯、菖蒲湯等を楽しんでいる。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴や力を活かし、モップかけや洗濯物たたみ等を職員と共に行う、歌を唄う、習字を書く、テレビを見る、散歩や買い物に出かける等、楽しんだり、気晴らし出来るような支援をしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者は、それぞれに応じて散歩や買い物に出かけている。車椅子での散歩やドライブ、吹奏楽の鑑賞、家族との外出等の機会がある。また、湘南国際村、イチゴ狩り、菖蒲園にも出かける等計画的に外出を支援している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ユニットの扉は無く、居室および日中の玄関には鍵をかけていない。玄関の出入りを鳥の声のセンサーで把握し、鍵をかけないケアを実践している。近隣の車の販売店の方と顔見知りの関係を構築し、見守りの協力を得ている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年3回自主防災訓練を行なっている。消防署とは電話連絡をしており、消火器の使い方について指導を仰ぐ等の協力が得られている。利用者一人につき水6、米パック10個を常備している。自治会がないこともあり、防災訓練等に地域から協力を得られるまでには至っていない。		災害時等の対応について、理解が得られている近隣の方々の他、運営推進会議を通じ地域から協力が得られるよう働きかけるとさらに良い。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量は1000ccを目安に「水分摂取量」に、食事は「記録用紙」に毎日摂取量を記入し、個々の状態を把握している。肥満気味の方は量の制限をして体重を管理している。食事後に献立表を作成しているが、専門家による定期的なチェックは受けていない。		栄養の専門的な観点から献立表を定期的にチェックしてもらい仕組みを作ることが望まれる。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	花や季節行事の飾り等で季節感を取り入れている。照明は柔らかく、利用者が共用スペースで過ごす間に居室の窓を開ける等、職員が室温や換気に配慮している。台所等の設備は一般家庭と同様で、広めの浴室には取り外しできる簡易手すり等を準備している。バリアフリーでエレベーターがあり、トイレ等は車いすを利用する際にも十分な介助スペースがある。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	衣類の収納方法等は利用者ごとに様々で、各人の習慣等を生かした居室になっている。「居室が本人にとって安心できる空間になるよう、使い慣れた家具を持ちこみ下さい」とお持込品リストに記載している。小物入れ、タンス、テーブルと椅子、家族の写真、趣味の本等が持ち込まれ、本人が居心地よく過ごせるようになっている。		

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	スマイル住まいる横須賀大矢部
(ユニット名)	ユニット1
所在地 (県・市町村名)	神奈川県横須賀市大矢部3-18-5
記入者名 (管理者)	丸山 如絵
記入日	平成20年1月9日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
<input type="checkbox"/>	1 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念を作り、皆の目につく所へ貼ってあります。		
<input type="checkbox"/>	2 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝の朝礼時に唱和し一人一人が意識し業務に取り組んでいる。		
<input type="checkbox"/>	3 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	地域の方との関わりを大切にし、行事等に参加させて頂き、ご家族には定期的に便りを作り配布している。その中で地域との関わりや外に行く事の大切さを理解して頂けるように努めている。		
2. 地域との支えあい				
<input type="checkbox"/>	4 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	外出時、近隣住民との挨拶を行い、また常時立ち寄ってもらえるようにしている。		
<input type="checkbox"/>	5 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会、老人会はないが、地域の小学校の運動会、文化祭に招待されたり、授業の一貫として訪問も受け入れ交流を図っている。また、近所の中学生の体験学習を受け入れ交流をはかっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	出来ていない。	×	
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員は毎朝朝礼時に輪番制で外部評価項目を唱和し日々のケアに意識付けし、その日1日の目標としている。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	これまでの市の指導に基づき定期的に運営推進会議を開き、外部者の意見を参考にホームを見つめ直す機会としてきている。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市内グループホーム協議会主催の説明会、研修会などへは必ず市の職員への参加を呼びかけ同席してもらっている。また、その他に必要な場合は市の窓口へ出向き相談にのってもらっている。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	必要な研修などには参加し今後に向けてホームでも対応出来るよう理解を深める努力をしている。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	目に見える身体拘束などの虐待は行われていないが、目に見えない言葉での虐待」などが行われないう注意を払い虐待へ発展しうる危険を少しでも感じる時は即対応している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約は生活全般を含めホーム内のルールなどの説明も行い、納得を計った上で締結している。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>毎日の生活の中で声をかけるに留まり特別な機会は設けていない。</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎日記録している日誌及びお小遣いの出納帳及び領収書は毎月必ず、ご家族に提出している。職員の異動等については来所時または通知にておこなっている。</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族会は設けていないため定期的な意見を聴取する機会はないが、電話や面会の際に越えをかけるようにしている。</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎月ミーティングの機会を設け職員の意見や、提案を聴取している。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>ご家族を交えたケア会議の設定は出来る限りご家族の都合に合わせて行っている。また、緊急ケア会議を行う場合などは勤務変更、時間外出勤などにて調整をはかっている。</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>異動や、離職を極力減らせるよう努力はしているが、皆無とはいえない。その時期などは最大限に配慮しお客様へのダメージを念頭においている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は社内の管理者研修に参加している。		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホーム協議会に参加し同業者間のネットワークの中で研修会に参加、運営上の問題点など互いに抱える悩みなどの問題解決に向けて取り組んでいる。		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	休憩室がないなどのハード面での改善は難しいが、希望する休みを確保するなど精神面に目を向けるよう心がけはしている。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	個人個人の個性や、特性を理解した上で各自が向上心を持って働けるよう配置などの配慮をしている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前の見学、調査などには出来る限りの次官を設けご本人を知ることにも努めている。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前の見学、調査などには出来る限りの次官を設け、ご家族の不安や希望を知るように努めている。また、希望があればその機会を増やしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要とされている支援に出来る限り気付き、役立てるような心構えを常に持ち、努めている。場合によっては、入居は勧めず他のサービスなどの説明も行っている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	必要に応じてお試し入居を行っている。事前の説明を細かく丁寧に行う事で不安を出来る限り少なくする努力をしている。またホームの環境に馴染めるように家族と話し合いを深め、取り組んでいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常生活の中で喜怒哀楽を感じ、お互いを尊重しつつ、共に生活を送っている。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には行事に参加していただいたり、日常来所された際に、より親密な関係を気づき、入居者一人ひとりの出来事を共に考え支えていく関係を築いている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居前よりご家族とご入居者との関係を良く聴き取り、より良い関係でいられるように努めている。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまで生活されて来られた地域の商店などに出向いていき、現在も商品の配達をいただくなどご入居者が築いて来られた関係を継続している。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	ご入居者が他者の事をどう思っているのか理解し、場合によってはご入居者同士さりげなく離し、場面を変えるなどの配慮をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	他のサービスが必要な場合は、他のサービス利用につなげるなどの関わりを持っている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来る限り本人の希望、意向を把握できるようにしている。全ての事柄に対し希望通り答えられてはいないが、出来る限り検討し実行している。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前よりモニタリング等を行い、入居後も継続している。更に家族の面会時に情報を提供していただいたり、日々の生活の中でご本人から話を訊いて書類に蓄積している。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	スタッフは一人一人の日常の様子から現状を理解する事に努め、個人に合ったサービスを提供出来るようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	都合のつくご家族には参加いただきケア会議を開催、スタッフの意見、医療機関・訪問看護の意見や指示なども計画書に盛り込んでいる。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態に応じその時必要だと思った事に関し、ケア会議を行い、都合のつくご家族には参加いただいている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を記録に残し、問題となる部分に関しては更に別紙での記録を取り観察を深め、分析を行い、問題改善につなげ、新しく計画書を作成し直すなどの試みを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ご家族やご本人が望んでいる事を理解し、その要望に答えられるように努力している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の方との関わりでは、ボランティアの方に来ていただいたり、近くの小学生の訪問、また学園祭等の招待を受けている。また、防災訓練を行う際は、消防署の参加を頂くなどの指導を依頼している。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他のサービス利用は、必要に応じて行えるよう支援している。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在新規入居希望者(成年後見人制度利用)の対応が初回となるので、今後の課題である。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との関係を築き、情報交換を行っている。緊急時には24時間連絡が取れる状態にある。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	専門医が月2回往診に来られ、その他でも連絡が取れる状態にあり、何かあった場合は相談、アドバイス、指示、緊急往診などの体制がある。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	訪問看護を週1回実施。緊急時にも24時間連絡が取れる体制で入居者の健康・医療面を支援している。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	医師・看護師との情報交換の連携は出来ている。日常の往診時の情報交換からもその関係は築かれていると考えられる。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合、主治医、看護師、家族、ホームなどで話し合い、今後について決めている。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度の入居者に対し、その方の出来ること出来ないことを見極め、生活の援助を行っている。かかりつけ医と必要に応じ連絡・情報交換を行い対応している。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	別の居所へ移り住む際に、家族や移り先の担当者へ暮らし方や状況を伝え、今後の生活に役立てていただけるよう情報交換を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>言葉かけや対応には十分注意をし、プライバシーを配慮した介助を行っている。記録について同様の配慮を行っている。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>入居者一人ひとりを理解し、その方にあった対応・働きかけを行っている。自分で決められたことに対しては、より良いサポートを行う様努めている。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>一人一人自分のペースで自室で横になって過ごしたり、Dルームにいる場合は、その方の好きなテレビ、ビデオ、音楽をきいたり、洗濯物をたたんだりと思い思いに過ごしてもらっている。</p>	
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>外出が可能な場合には、近くの理美容室まで行き、困難な場合には訪問美容をお願いしている。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>毎日食べたい物を問いかけ、買物に行き、一緒に食事の準備をするように心がけている。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>自分の好きなおやつを選んで頂くなどの配慮をしている。また困難な方には種類を減らすなどして選びやすくしている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	<p>気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	<p>一人一人の排泄パターンを把握し、兆候などに気付くよう観察し、時間を見計らいトイレでの排泄に心がけている。</p>		
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>毎日入浴準備を行い体調を確認した上で入浴できるよう声かけしている。その季節の行事として、ゆず湯・菖蒲湯なども楽しまれている。現在は概ね日中の時間帯に入浴していただいている。</p>		
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	<p>一人一人の生活習慣を把握し、室内の温度にも考慮し安心して休めるよう配慮している。また、夜間眠れない場合には、お茶を出したり、話を聴くなどの対応をしている。</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>個人個人の好きなことを知り、出来る限り付き合いそれをその方の日課とし取り入れている。</p>		
60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>管理出来る方は自己管理金を持っている。その他自己管理が難しい方でも必要と思われる場合は持っている。</p>		
61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>個々のペースに合わせて、散歩や買物、ドライブ等おこなっている。</p>		
62	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	<p>ご入居者の望みを叶えられるよう家族の方に相談し、外出の機会を持って頂いている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望により、電話をかけたい時は事務所の電話を使っていただいている。ファックスも同様。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	来所の際は過ごしやすいようお部屋へ案内したり、リビングの場合はその方達だけで過ごせるよう席の移動をしたりしている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員一人一人が理解し、拘束は行っていない。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	外へ行きたい時には出られるよう玄関は鍵をかけていない。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	一人一人の行動を把握し、出来る限り見守りをおこなっている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意の必要な物品を一律に排除するのではなく、ごく普通の環境になるよう気をつけている。危険防止についても気をつけて見守りを行っている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	申し送り等を徹底し、一人ひとりの状態を把握し、事故防止に取り組んでいる。事故が発生した場合には発生した状況を書面化し、再発防止にも取り組んでいる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変時には、救急対応、連絡先を把握しており、緊急対応の書籍も常備している。消防署指導の元、CPRの講習も受けている。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	近隣との関わりを大切にし、地域の人々と顔見知りになるようにしている。また、定期的に防災訓練を行っている。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	ご家族とのコミュニケーションを大切にし、随時ご入居者の状態に応じ、ご家族に連絡し、話し合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	個々の体調変化や異変に常に気を配り、スタッフ間での情報の共有も連絡ノート、日誌により行っている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お客様の飲んでいる薬を把握し、状態の変化や、様子についても気を配っている。また、服薬事故のないように薬確認は何重にもチェックしている。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	一人一人の体調に合った予防を行い、また個々に合った排便コントロールをおこなっている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、口腔ケアを行い、状態により、一部介助や全介助で行い口腔清潔を保っている。また、定期的に訪問歯科診療があり、必要なご入居者は、随時診ていただくことのできる体制がある。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の水分量、食事をチェック表を作成し記入している。不足しているご入居者には個人に合わせた方法で補えるようにしている。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	外出後の手洗い、うがいを徹底している。(スタッフご入居者も)また、食事前には、消毒液を用いた手指の消毒を行っている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食器調理器具は清潔にし、食洗機を用いて充分乾燥し、熱処理している。付近、まな板は毎日消毒している。また、生鮮食品は買い置きせずに毎日買物に行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関や建物周囲に季節の草花を置き家庭的な雰囲気になっている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間にお客様の作品を展示したり、季節を取り入れた花や作品を飾ったりしている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間にソファを数箇所配置したり、好きな場所に移動でき、過ごせるようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物をご持参頂くように伝え持って来て頂いている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	24時間換気を備えている。その他にも適宜換気を行っている。温度調節に関しては、各居室にエアコン、ダイニングルームにはエアコンと床暖房があり、季節や気温に合わせて利用している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下などに手すりがついており安全に過ごせるようになっている。また、歩行が危ない方に関してはその方に合う、杖や歩行器を使用してもらっている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	分からない事に関しては、さりげなく介助を行うようにし、混乱がないよう見守りをしている。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	中庭があるが、段差が高く、手すりがないのでなかなか思うようには出れず活かせていない。		中庭のスペースを活かせるようにしたいとおもいます。

サービスの実績に関する項目

項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

ご入居者が生き生きとした日常生活を送り、持っている力を発揮し、過ごしやすい環境でること。日常生活の中で、買物に行くなどの日課があり、その方生きがいともなっている。また、季節感を味わって頂けるように行事、外出の機会を持ち、五感を働かせるよう努めている。その様子をホーム便りにしてご家族へ配布している。

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	スマイル住まいる横須賀大矢部
(ユニット名)	ユニット2
所在地 (県・市町村名)	神奈川県横須賀市大矢部3-18-5
記入者名 (管理者)	小杉 一洋
記入日	平成20年1月18日

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
	理念を作り、皆の目につく所へ貼ってあります。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		
	毎朝の朝礼時に唱和し、理念の実践に向けて取り組んでいる。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		
	家族に対してはホームのあり方を説明し理解いただいていると考えているが、地域の方への浸透は出来ていない。		地域の行事等に出来る限り参加できるよう取り組みその中で理解を深めていきたい
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		
	外出時、近隣の住民との挨拶、日常会話程度は毎日ではないが行われている。また、常時立ち寄って貰える状態にはなっている。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		
	自治会、老人会はないが、地域の小学校の運動会・文化祭に招待され、授業の一環として訪問も受け入れ交流を図っている。また、近所の中学生の体験学習も受け入れ交流をはかっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	できていない。	×	
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員は毎朝朝礼時に輪番制で外部評価項目を唱和し、日々のケアに意識付けし、その日1日の目標としている。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	これまでの市の指導に基づき定期的に運営推進会議を開き、外部者の意見を参考にホームを見つめ直す機会としてきている。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市内グループホーム協議会主催の説明会・研修会などへは、必ず市の職員への参加を呼びかけ同席してもらっている。また、その他に必要な場合は、市の窓口へ外向き相談にのってもらっている。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	必要な研修などには参加し、今後に向けてホームでも対応出来るよう理解を深める努力をしている。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	目に見える身体拘束などの虐待は行われていないが、「目に見えない言葉での虐待」などが行われないよう注意を払い、虐待へ発展しうる危険を少しでも感じる時は、即対応している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約は生活全般を含めホーム内のルールなどの説明も行い、納得を計った上で締結している。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>毎日の生活の中で声をかけるに留まり、特別な機会は設けていない。</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎日記録している生活の様子・お小遣いの出納帳及び領収書は、毎月必ずご家族に提出している。又、職員の異動等については来所時及び通知にて行っている。</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族会は設けていないため定期的に意見を聴取する機会はないが、電話や面会の際に声をかけるようにしている。</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎月ミーティングの機会を設け職員の意見や、提案を聴取している。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>ご家族を交えたケア会議の設定は、出来る限りご家族の都合に合わせて行っている。また、緊急ケア会議を行う場合などは勤務変更、時間外出勤などにて調整をはかっている。</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>異動や、離職を極力減らせるよう努力はしているが、皆無とはいえない。その時期などは最大限に配慮し、お客様へのダメージを念頭においている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は社内の管理者研修に参加している。		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホーム協議会に参加し同業者間のネットワークの中で研修会に参加、運営上の問題点など互いに抱える悩みなどの問題解決に向けて取り組んでいる。		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	休憩室がないなどのハード面での改善は難しいが、希望する休みを確保するなど精神面に目を向けるよう心がけをしている。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	個人個人の個性や、特性を理解した上で各自が向上心を持って働けるよう配置などの配慮をしている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前の見学、調査などには出来る限りの時間を設けご本人を知ることにも努めている。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前の見学、調査などには出来る限りの時間を設け、ご家族の不安や希望を知るように努めている。また、希望があればその機会を増やしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要とされている支援に出来る限り気づき、役立てるような心構えを常に持ち努めている。場合によっては入居は勧めておらず、他のサービスなどの説明も行っている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居にあたって不安をより少なく出来るよう事前の説明にあっている。またホームの環境に馴染めるような対応を家族と相談の上行っている。お試し入居も行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員はご入居者を共に生活する人として考え、日常生活の中で喜怒哀楽を共にし、敬う気持ちを持って、一人ひとりが歩んできた人生の中から学ぼうとしている。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には行事に参加していただいたり、日常来所された際に、より親密な関係を気づき、入居者一人ひとりの出来事を共に考え支えていく関係を築いている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご家族と入居者の関係を理解し、より良い関係でいられるように努めている。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会は随時可能である。馴染みの方が面会にこられた際には次の機会に気持ちよく来ていただけるような対応を心がけている。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者が他者の事をどう思っているのか理解し、状況によって違う話題を提供する等、入居者同士が関わり合いを持つことができるように努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入居後ご自宅へ退去され、最期の連絡を担当ケアマネより受け、訪問し面会させていただいたことがある。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来る限り本人の希望、意向を把握できるようにしている。全ての事柄に対し希望通り答えられてはいないが出来る限り検討し実行している。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に生活歴や馴染みの暮らし等モニタリングしている。又、日常生活の会話等の中からも把握に努めている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりの日常の様子から現状を理解することに努め、個人に合ったサービスを提供できるようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご家族面会時等に日常の様子を伝えるとともに意見も聞き入れている。必要に応じてケア会議へのご家族参加も行っている。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態に応じその時必要だと思った事に関し、ケア会議を行い、都合のつくご家族には参加いただいている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	連絡ノートや経過記録に記入・閲覧し一人ひとりの情報を共有し、実践・今後の取り組みにも活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人やご家族が望んでいる事を理解し、その要望に答えられるように努力している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の方との関わりでは、ボランティアの方に来ていただいたり、近くの小学生の訪問、また学園祭等の招待を受けている。また、防災訓練を行う際は、消防署の参加を頂くなどの指導を依頼している。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他のサービス利用は、必要に応じて行えるよう支援している。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在新規入居希望者(成年後見人制度利用)の対応が初回となるので、今後の課題である。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との関係を築き、情報交換を行っている。緊急時には24時間連絡が取れる状態にある。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	専門医が月2回往診に来られ、その他でも連絡が取れる状態にあり、何かあった場合は相談、アドバイス、指示、緊急往診などの体制がある。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	訪問看護を週1回実施。緊急時にも24時間連絡が取れる体制で入居者の健康・医療面を支援している。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	医師・看護師との情報交換の連携は出来ている。日常の往診時の情報交換からもその関係は築かれていると考える。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合医師、看護師、家族と話し合い今後について決めている。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度の入居者に対し、その方の出来ること出来ないことを見極め、生活の援助を行っている。かかりつけ医と必要に応じ連絡・情報交換を行い対応している。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	別の居所へ移り住む際に家族や移り先の担当者へ暮らし方や状況を伝え、今後の生活に役立てていただけるよう情報交換を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>言葉かけや対応には十分注意をし、プライバシーを配慮した介助を行っている。記録について同様の配慮を行っている。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>入居者一人ひとりを理解し、その方にあつた対応・働きかけを行っている。自分で決められたことに対しては、より良いサポートを行う様努めている。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそつて支援している</p>	<p>基本的に入居者個人の意見を尊重し希望を支援しているが、状況・内容によってはアドバイスさせていただいている。</p>	
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>外出が可能な場合には、近くの理美容室まで行き、困難な場合には訪問理美容をお願いしている。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>入居者の好みを理解し栄養面を踏まえた食事を提供している。食材準備の買い物、準備等可能な限り一緒に行っている。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>本人が望む嗜好品を現在の体調等を配慮したうえ、日常の楽しみと出来るように支援している。可能な限り希望を取っている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	<p>気持よい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	一人ひとりの排泄パターンを把握し、兆候・、時間を見計らいトイレでの排泄に心がけている。		
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	毎日入浴準備を行い体調を確認した上で入浴できるよう声かけしている。その季節の行事により、ゆず湯にしたり菖蒲湯にしたりしている。基本的に日中時間帯に入浴実施している。		できる限り希望があれば時間を調節しての入浴を実施していけるよう考えていく。
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	一人一人の生活習慣を把握し、室内の温度にも考慮し安心して休めるよう配慮している。夜間に限らず必要を感じた際には、居室で休んで頂くなど配慮している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	入居者の趣味を理解し実践できるよう支援している。また出来ることを把握することによって役割を持っていただき実践していただいている。		
60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	管理出来る方は自己管理金を持っている。その他自己管理が難しい方でも必要と思われる場合は持っている。		
61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	一人ひとりのペースに合わせ、散歩や買物、ドライブ等おこなっている。		
62	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	お客様の望みを叶えられるよう家族の方に相談し、外出の機会をもっていただくようにしている。季節によってはの外出も行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により、電話したい時は事務所の電話を使っていただいている。自室に電話を設置されている方もいる。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問してくださる方が過ごしやすいよう、今後訪問しやすい様対応している。希望に応じて居室・リビングどちらでも過ごしていただけるようになっている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員一人一人が理解し、拘束はおこなっていない。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	外へ行きたい時には出られるよう玄関は鍵をかけていない。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	一人一人の行動を把握し、見守りをおこなっている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意の必要な物品を一律に排除するのではなく、ごく普通の環境に出来るよう気をつけている。危険防止についても気をつけて見守りを行っている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	申し送り等を徹底し、一人ひとりの状態を把握し、事故防止に取り組んでいる。事故が発生した場合には発生した状況を書面化し、再発防止にも取り組んでいる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変時には、救急対応、連絡先を把握しており、緊急対応の書籍も常備している。消防署指導の元、CPRの講習も受けている。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	近隣との関わりを大切にし、地域の人々と顔見知りになるようにしている。また、定期的に入居者参加の元、避難訓練を行っている。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居者の日々の生活については職員・ご家族と暮らしやすい生活が出来るよう話し合い実践している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	個々の体調変化や異変に常に気を配り、スタッフ間での情報の共有も連絡ノートに書き分けるようおこなっている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者の服用している薬は職員が内容を把握できる様管理している。状態によっては医師に相談する等行っている。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	一人一人の体調に合った予防を行い、また医師と相談の元、個々に合った排便コントロールを行っている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、口腔ケアを行い、状態により、一部介助や全介助で行い歯の清潔を保っている。また、定期的に訪問歯科受診があり、必要なお客様は受診していただいている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの水分量、食事量をチェック表を作成し記入している。不足しているお客様には個人に合わせた方法で補えるようにしている。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	外出後の手洗い、うがいを徹底している。食事時は、消毒液を用いた手指の消毒を行っている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食器調理器具は清潔にし、食洗機を用いて充分乾燥し、熱処理している。ふきん、まな板は毎日消毒している。また、生鮮食品は買い置きせずに毎日買物に行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関や建物周囲に季節の草花を置き家庭的な雰囲気になっている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間にお客様の作品を展示したり、季節を取り入れた花や作品を飾ったりしている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間にソファを数箇所配置したり、好きな場所に移動でき、過ごせるようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを 活かして、本人が居心地よく過ごせるような工 夫をしている	入居当時にご家族へ使い慣れた物をご持参頂くように伝え、 持って来ていただいている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換 気に努め、温度調節は、外気温と大きな差が ないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめ に行っている	24時間換気を行い、適度に空気の入替えを行っている。 季節によって温度管理も行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かし て、安全かつできるだけ自立した生活が送れ るように工夫している	廊下などに手すりがついており、安全に過ごせるようになって いる。また、歩行が危ない方に関してはその方に合う、杖や 歩行器を使用して頂いている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失 敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫してい る	分からない事に関しては、さりげなく介助を行うようにし混乱 がないよう見守りをしている。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだ り、活動できるように活かしている	中庭があるが、段差が高く、手すりがないのでなかなか思うよ うには出れず活かせていない。		中庭のスペースを活かせるようにしたいとおもいます。

サービスの実績に関する項目

項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)